



JX (NELEUS)

B . C . 取扱説明書

はじめに...

まえがき

お買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書は、レジャーダイビング用浮力調整機器 (B . C .) NELEUSをご使用いただくためのガイドブックです。
本取扱説明書は、潜水指導団体の講習を受けCカードを取得し、B . C . の正しい使用方法を身につけた方はもちろん、潜水指導団体の指導のもとでご使用になる方にも、技術を習得する上でお役に立つものと考えております。この取扱説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解された上で実際にご使用下さいますようお願いいたします。またダイビング前にこの説明書をご覧になれるよう、お出かけの際はいつもお持ちいただく事をお勧めいたします。

本取扱説明書は紛失なされぬよう大切に保管ください。紛失された際は、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱店におたずねください。

後日、再交付致します。

この取扱説明書の主な内容は、製品の組み立て、タンクへのセッティング、使用前の点検、使用方法、かたづけ方、保管と定期点検からなっています。

(B . C .) NELEUSは、レジャーダイビング用レギュレーターとの組み合わせにより使用が可能となるダイビング用品です。

したがって、正しいレギュレーターの取り扱いの知識が必要となります。ダイビングを実際にされる際は、この取扱説明書とともに、ご使用となるレギュレーターの取扱説明書をご利用ください。

またレギュレーターの機種によっては、本製品との組み合わせによる使用に適さない事も考えられます。ビーイズム社製レギュレーターとの組み合わせによるご使用をお勧めいたします。

(B . C .) の設計内容に関する不断の研究・改良の結果、この取扱説明書の内容がお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。

お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容につきましてのご質問は、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

目次

まえがき	1
▲必ずお読みください	2
各部の名前と仕様	3
特徴	7
組み立てる	8
タンクにセットする前に	8
タンクへのセッティング	10
B . C . ホースの接続	10
給・排気基本操作と作動点検	11
着る・脱ぐ	12
基本使用方法	14
2WAYインフレーター	15
F . T . A . の調整	16
ウェイトポケットの使い方	17
タンクからははずす	18
洗う・乾かす	18
保管と定期点検	19
アフターサービス	19
故障?と思ったら	20

株式会社ビーイズム

〒103-0004
東京都中央区東日本橋3-6-18 NFビル5F
電話 (03) 5640-8126(代) FAX(03) 5640-8131

必ずお読みください

使用目的

本製品は、レジャーダイビングにおける使用を前提とした潜水器材です。
レギュレーターとの接続によりその使用が可能となり、レジャーダイビング時における、
「中性浮力の調整」をおこなう浮力調整装置です。

安全上のご注意

安全にご使用いただくためには、正しい取扱いと定期的な保守が不可欠です。本書ならびにその他組合わせる器材の取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになってから、ダイビングを行ってください。本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危険や財産への損害を未然に防止するため、いろいろなマークを使用しています。その表示や、意味は以下の通りです。

▲ 危険

守らないと、重大な怪我や死亡事故につながる可能性が極めて高い事柄です。

▲ 警告

守らないと、重大な怪我や死亡事故につながる可能性がある事柄です。

▲ 注意

守らないと、人が障害を負う危険や物損事故が起きる可能性がある事柄です。

【お知らせ】

知っていると便利な操作や解説です。

▲ 危険

- 本製品を使用する場合は、国際的に認知されている潜水指導団体の講習を受け、Cカードを取得し器材の正しい取扱い方法を身につけた後、または潜水指導団体の指示のもとでご使用ください。人身事故につながる恐れがあります。
- 絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにしてください。単独潜水は、重大な事故につながる可能性があり大変危険です。
- 本製品をご利用になる前に、必ず本書により取り扱い方法、および警告や注意事項をすべて理解してください。また、海洋で本格的に使用する前に、使い方を理解してからご使用ください。
- 本製品を、レジャーダイビング以外の目的で使用しないでください。
- 本製品に異常が見受けられた場合、速やかに使用を中止し、お買い上げ店もしくは弊社商品販売店にご相談ください。

▲ 警告

- スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行なってください。少しでも体調に不安を感じた場合には、絶対に無理は避けダイビングを中止してください。
- スクーバダイビングを行なう前にはアルコール類の摂取や、薬品類の服用は避け、体調の悪い方や持病のある方は必ず事前に医師の診断をお受ください。
- 本製品は、一般の健康で平均的体力を持った人を基準に設計しています。個々のダイバーはそれぞれ自分にあつた安全なダイビング計画の作成と遂行を行なってください。
- 本製品は、通常水域（海洋、湖、淡水及び海水プール）で使用するレジャーダイビング用B.C.です。特殊な（薬物、溶剤、油分、等がある）環境での使用はできません。
- サイドポケットにウェイトを入れないでください。ポケット故障の原因になるだけでなく、緊急時にウェイトを取り外すことが難しくなり人身事故につながる恐れがあります。
- 潜水する前に必ず、フロートから空気を完全に抜いた状態で水面での中性浮力が確保できるように、ウェイトの調整を行ってください。潜水落下による人身事故につながる恐れがあります。

必ずお読みください

▲ 警告

- ホースを折ったり、引っ張ったりしないでください。壊れるばかりでなく人身事故につながる恐れがあります。
- 給気する空気の浮力を利用して浮上するような使い方はしないでください。(リフティングバッグなど) 急激な浮上により潜水病になる可能性があります。
- エアセルに空気を入れた状態で2m以上の高いところから飛び込まないでください。大きな浮力が急激にかかり、B.C. が壊れるばかりでなく怪我をすることがあります。

▲ 注意

- ガソリン等の溶剤類、化粧品等のスプレー液やクリーナー液、接着剤及び塗料、酸やアルカリなどが付着すると、変質することがあります。これらが本体およびホースに付着しないよう十分注意してください。
- 体型にあったホース長さを使用してください。ホースの長さが極度に体型と合わない際は、表示が見にくかったり、地面に引きずりぶつけ壊れるなど、さまざまな支障が考えられます。体型にあったホース長さをご使用ください。
- 通常の使用状態でのショックには十分耐えますが、落としたり、強くぶついたり、すると故障の原因になります。
- 改造は、安全上問題となることがあります。改造はしないでください。改造によるトラブルに関しては責任を負いかねます。

各部のなまえと仕様

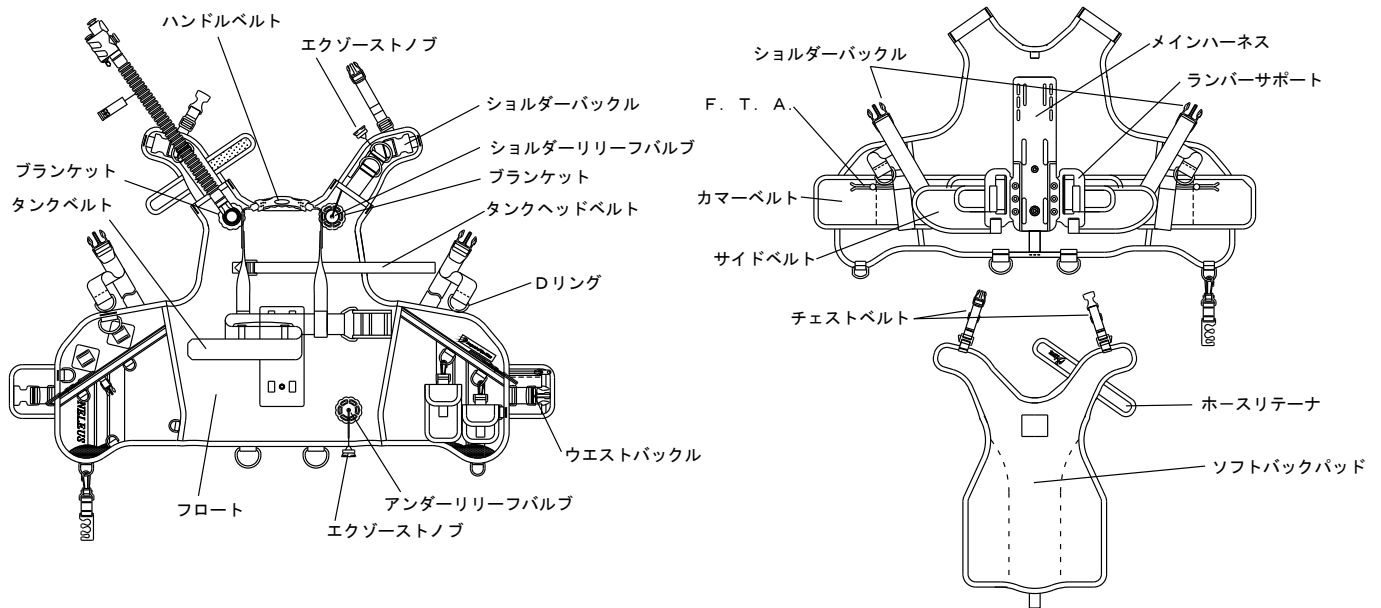
組み立て時

■ J X 3 0 1 0 D



バックル解放時

■ J X 3 0 1 0 D



各部のなまえと仕様 (つづき) 使いかたの説明は、() 内のページにあります。

インフレーター

■コンビネーションバルブⅡ



■スタンダードバルブ



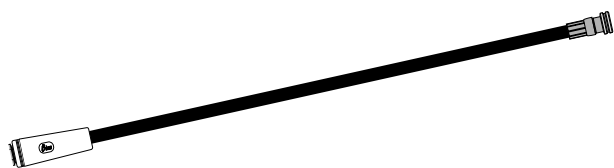
付属品

本製品をお使いになる前にお確かめください。詳しい説明は、() 内のページをご覧ください。

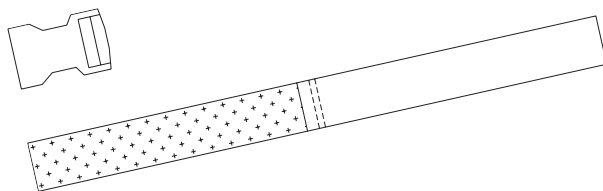
■保証書 (1部)

■取扱説明書 (1部)

■B. C. ホース (1本) ホースガード (1個)
レギュレーターファーストステージに取り付けます。
(8ページ)



■バックルメス (1個) ジャバラベルト (1本)
(コンビネーションバルブⅡのみ)
コンビネーションバルブをバックポジションで使用するとき
装着。(15ページ)



各部のなまえと仕様 (つづき) 使いかたの説明は、() 内のページにあります。

仕様

本体

最大浮力 ; XS ; 117N (12kgf)
S ; 137N (14kgf)
M ; 157N (16kgf)
L ; 196N (20kgf)
XL ; 245N (25kgf)

重量 (JX3010Q は M. L. XL サイズのみ)

[JX3010D] XS:3.3kg
S:3.4kg
M:3.5kg
L:3.7kg
XL:4.0kg
[JX3010Q] M:3.9kg
L:4.1kg
XL:4.4kg

胴周り長さ ; 60cm~102cm

ポケット積載重量 ; 5kg以下 (片側)

使用温度範囲 ; -5~+50℃

材質 ; 合成樹脂引布

基布 ; ナイロン

裏面 ; ポリウレタン

ホース部分

材質 ; 内管 ; 塩化ビニル樹脂
外皮 ; 塩化ビニル樹脂

継手金具 ; 銅合金

外径 ; 13 mm

長さ ; 700 mm

継手ネジの呼び ; 3/8-24UNF

最高使用圧力 ; 15 bar

最小曲げ半径 (ホース内側) ; 115 mm

ホースガード ; 標準装備

リリーフバルブ

位置 ; 右肩部に1カ所、右腰部に1カ所

オーバープレッシャー排気作動圧力 ; 0.2bar以下

クイックデフレーションに必要な引張り力 ; 9.8~14.7N (1~1.5kgf)

コンビネーションバルブⅡ

蛇腹ホース長さ ; 550mm (JXのL, XLサイズは670mm)
(ブランケット中心からORALボタン先端までの長さ)
重量 ; 405g
給気流量 ; 80リットル/分

スタンダードバルブ

蛇腹ホース長さ ; 540mm
(ブランケット中心からORALボタン先端までの長さ)
重量 ; 360g
給気流量 ; 80リットル/分

フロート破裂防止装置

■リリーフバルブ

誤って過剰にB. C. のフロートに給気してしまったときに、その破裂を防ぐために、フロート内圧力が一定圧を超えると自動的にリリーフバルブの弁が開き、ブランケットより空気を逃がす構造になっています。

特徴

本製品の特徴

- カマーベルト長さ調整機構（8ページ）
- ウエスト部のカマーベルトの長さ調整ができます。

- ショルダーベルト長さ調整機構（9ページ）
- ショルダーベルトの最大長さを調整することができます。

- ロングタンクバックル（10ページ）
- 特に強い力を必要としなくてもタンクに固定できるロングタンクバックルを採用しています。

- 簡単な排気操作（11・14ページ）
- OUTボタンによる排気（パワーデフレーション）ができます。
- ORALボタンによる排気ができます。
- ショルダーベルト部のエギゾーストノブを引くと、右肩のリリーフバルブより排気（クイックデフレーション）ができます。
- 右腰部のエギゾーストノブを引くと、右腰のリリーフバルブより排気（クイックデフレーション）ができます。

- クイックリリースショルダーバックル採用（12ページ）
- 親指だけで簡単にショルダーベルトを緩める事ができるクイックリリースバックルを採用しました。

- H. f. s. フロート構造採用
- B. C. へ給気したときに特殊形状リブの効果によって体を包み込むように膨らむフロート構造を採用しました。

- 薄型ハーネス採用
- タンクをより体に近づけ重量をほどよく分散する新設計の薄型ハーネスを採用しました。

- 2WAYインフレーター採用（15ページ）
- 蛇腹ホースを背中側からまわして使用することもできる2WAYインフレーター方式を採用しました。

- ウェストカーブライン採用
- 腰周りのあたりを抑え、体にフィットしやすいウェストカーブラインを採用しました。

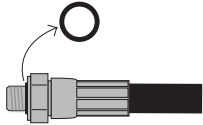
- F. T. A.（フロント・タイト・アジャスター）採用（16ページ）
- ストレッチコードの長さを変えることによりBCのフロント部分（ポケット部分）の上下の動きをタイトにまたはルーズに調整することができます。

組み立てる

レギュレーターにB. C. ホースを取りつける

警告

- レギュレーターファーストステージがタンクに接続していない状態で取り付けてください。作業中ファーストステージ内に圧力がかかっていると、ポート蓋が飛ぶなどして危険です。
- レギュレーターは、ファーストステージのL.P. ポートのネジの呼びサイズが3/8-24UNFのものをご使用ください。破損をまねくだけでなく、ホースが抜けるなどして人身事故につながる恐れがあります。
- B. C. ホースの接続ネジ部根元にOリングがセットされていることをご確認ください。Oリングが無い場合エア漏れの原因となります。

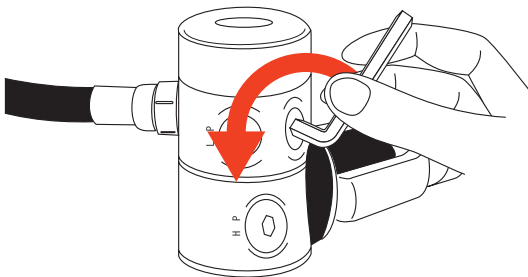


- H.P. (ハイ・プレッシャー) ポートに取り付けしないでください。

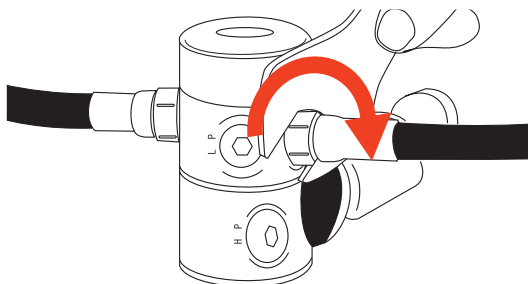
注意

- B. C. ホース金具部分をスパナで締め付ける際は、9.8N・m (100kgf・cm)の締め付けトルクを守ってください。ネジを傷める原因となります。
- 他社製ホースガードを取り付けしないで下さい。

- 1 レギュレーターのファーストステージのL.P. ポートの蓋を外してください。



- 2 中圧ホースをL.P. ポートに、スパナで時計方向に回して締め付けてください。締め付けトルクは9.8N・m(100kgf・cm)です。



タンクにセットする前に…

B. C. ホースの点検

ホースが破損していないか、折れていないかを点検します。

注意

- B. C. ホースに異常があったら使用してはいけません。
- B. C. ホースに異常がみられた場合は、ご使用を控えお買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店にご相談ください。

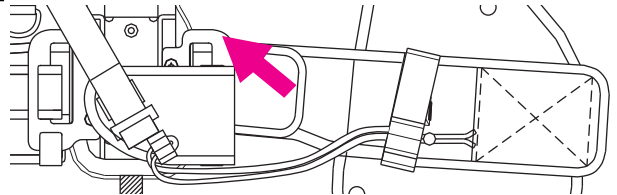
カマーベルト長さを調整する

注意

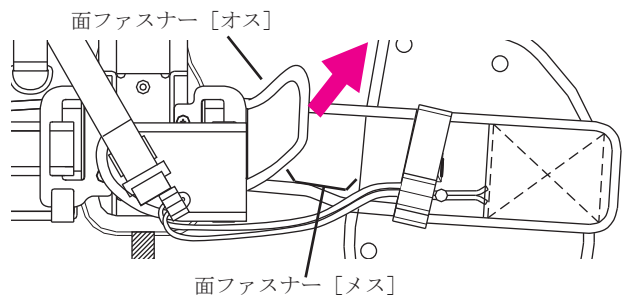
- ハーネスとサイドベルトをつなぐマジックバンドをはがしたり、あわせ部分の幅をかえたりしないでください。
- 実際に着用するスーツを着て長さ調整を行ってください。

□短くする

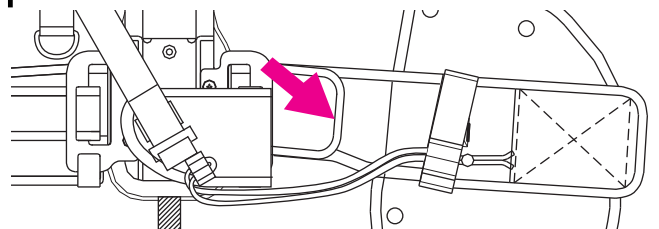
- 1 ソフトバックパッドを外します。
- 2 ベルトの面ファスナーをはがします。



- 3 ベルトを短くする分だけ引き出します。この時、引き出しすぎて面ファスナー「オス」が面ファスナー「メス」からはみ出ないように注意してください。



- 4 面ファスナーを表と裏から押さえて、貼り合わせます。



- 5 ソフトバックパッドを取り付けます。

□長くする

- 1 「短くする」の「1～2」と同様に、「3」で長くする方向にベルトを送ります。この時、送り過ぎて面ファスナー「オス」がハーネスのスリットの中に入らないよう注意して下さい。
- 2 「4」と同様に、面ファスナーを貼合わせ、「5」と同様に、バックパッドを取付けます。

【お知らせ】

- 着用するスーツの種類により、ウエスト寸法は大きく変化します。着用するダイビングスーツを変えた場合は、必ず長さ調整をやり直してください。
- カマーベルトは左右に一つずつあります。両方を使って長さ調整を行ってください。

タンクにセットする前に… (つづき)

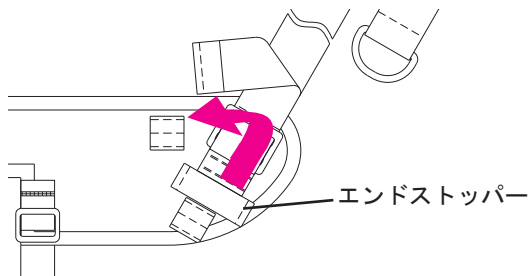
ショルダーベルトの最大長さ調整

【お知らせ】

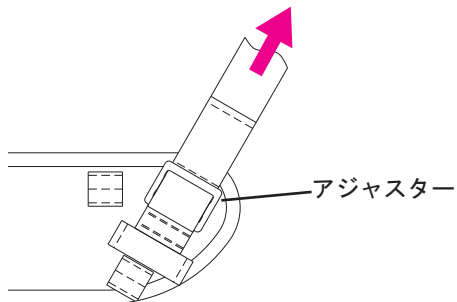
- ショルダーベルトを最もゆるめた時の最大長さを調節することができます。
- ショルダーベルトの最大長さを長くしておく、ドライスーツを着たときに腕が通しやすくなります。
- ショルダーベルトの最大長さを短くしておく、BCを装着した時に余ったベルトが邪魔になりにくくなります。

□ショルダーベルトを長くする

- 1 ショルダーベルトの下端をエンドストッパーからはずします。



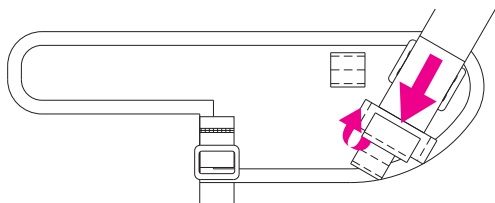
- 2 アジャスターの部分でショルダーベルトをずらし、下端をバックル側へ引き出します。



▲ 注意

- ショルダーベルトの下端はアジャスターから外さないようにしてください。ショルダーベルトが外れ、人身事故につながる恐れがあります。

- 3 調整後、余ったショルダーベルトはエンドストッパーに通しておきます。

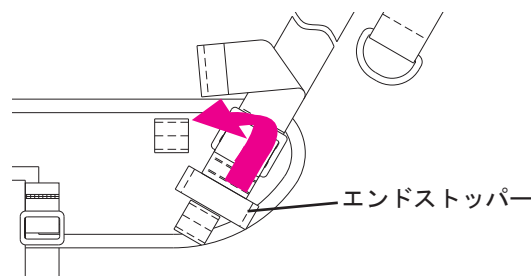


- 【お知らせ】**
- ショルダーベルト下端の折り返し部分をエンドストッパーに引っ掛けておくと余った部分が外れにくくなります。

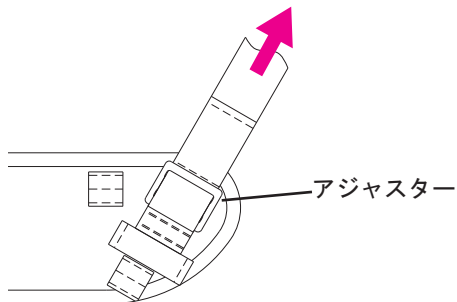


□ショルダーベルトを短くする

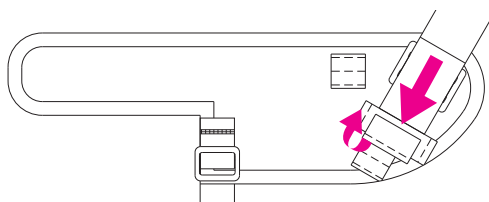
- 1 ショルダーベルトの下端をエンドストッパーからはずします。



- 2 アジャスターの部分でショルダーベルトをずらし、下端をバックルの反対側へ引き出します。



- 3 調整後、余ったショルダーベルトはエンドストッパーに通しておきます。



タンクへのセッティング

B. C. をタンクに取り付ける

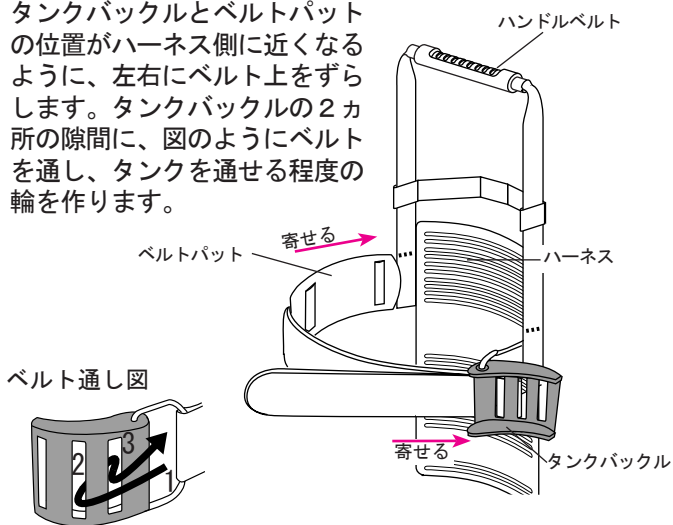
▲注意

- 取り付けの際、タンクは平らな地面など安定した場所に置いて下さい。倒れるなどして危険です。
- 取り付けの際、ハンドルベルトがタンクとB. C. の間に挟まらないようご注意ください。ハンドルベルトが使えないばかりでなく、タンクがしっかり固定されません。

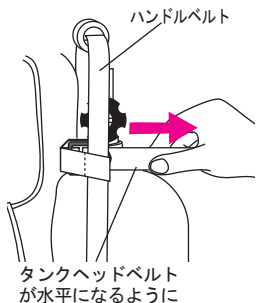
【お知らせ】

○ハンドルベルトは、B. C. をタンクにセットした後でタンクごと運ぶための取っ手です。

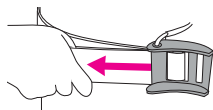
- 1 タンクバックルとベルトパットの位置がハーネス側に近くなるように、左右にベルト上をずらします。タンクバックルの2カ所の隙間に、図のようにベルトを通し、タンクを通せる程度の輪を作ります。



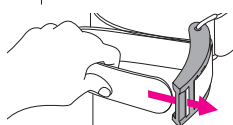
- 2 タンク上部からタンクベルトの輪をとおり、タンクバルブの空気出口側が着用時背中側を向くように、タンクの向きを合わせます。さらにタンクヘッドベルトを、水平の状態ですタンクバルブの下部部分でとめられるようにB. C. の取付け高さを合わせ、締め付けます。このときタンクヘッドベルトをきつく締め過ぎないように注意してください。



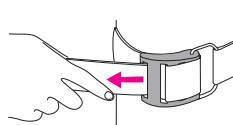
- 3 タンクバックルを図の向きにした状態でベルト先端部を引き、タンクを締め付けます。



- 4 ベルトの先端を引っ張りタンクバックルを倒します。ベルトの先端はベルト上の面ファスナーに張り合わせます。



- 5 ベルトの先端を引っ張りタンクバックルを倒します。ベルトの先端はベルト上の面ファスナーに張り合わせます。



【お知らせ】

○レギュレーターファーストステージをセットする前に、B. C. をタンクにセットします。

B. C. ホースの接続

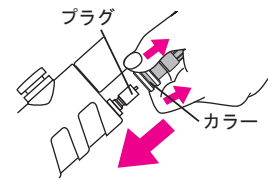
B. C. ホースを接続する

▲注意

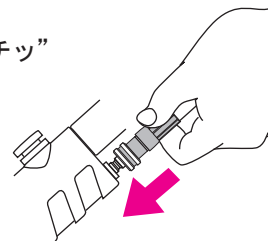
- B. C. ホース接続の作業を行うときはタンクバルブを閉じレギュレーターのパージボタンを押してホース内の圧縮された空気を抜いてください。

- 1 レギュレーターファーストステージをレギュレーター取扱説明書にしたがって、タンクバルブにセットします。

- 2 B. C. ホース先端のカプラーのカラーを引きながら、プラグに軽く差し込みます。



- 3 カプラー根元に持ちかえ、“カチッ”と音がするまで押し込みます。



- 4 カプラー根元を持ち、引っ張り、抜けないか確認してください。抜けてしまった場合は、始めからやり直して下さい。

B. C. ホースの接続部をチェックする。

▲注意

- 接続部からエア漏れがあったら、使用してはいけません。
- 接続部からエア漏れが止まらないときは、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店までご相談下さい。

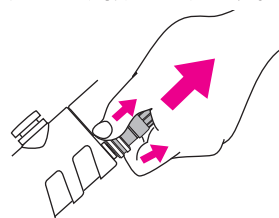
タンクのバルブを、レギュレーター・ゲージの取扱説明書にしたがって開きます。接続部に指をあてて、エアが漏れていないか確認します。また、空気の漏れる音がしていないか確認します。漏れていたらバルブを閉じ、レギュレーターセカンドステージのパージボタンを押すなどして、ホース内の圧力がかかっていない状態にしてから、もう一度カプラーを付け直し再度チェックします。

□B. C. ホースをはずす

▲注意

- B. C. ホースをインフレーターからはずす前に、必ずタンクバルブを閉じ、レギュレーターのパージボタンを押してホース内の圧縮された空気を抜いてください。

- 1 タンクバルブを締め、レギュレーターセカンドステージのパージボタンを押し、ホース内の空気を抜きます。
- 2 B. C. ホース先端のカプラーのカラーを引き、引いたままの状態、プラグより抜きとります。



給・排気基本操作と作動点検

インフレーター給・排気操作と作動点検

▲ 注意

- インフレーターのINボタンによる給気（パワーインフレーション）は、インフレーターが正しくセットアップされ、かつタンク内にエアがある場合のみ行われます。エアが十分でない場合は給気されません。
- インフレーター部分に強い衝撃を与えないで下さい。破損の原因となり動作不良を引き起こします。
- 下記点検において異常がみられた場合は、使用を中止しお買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店にご相談下さい。

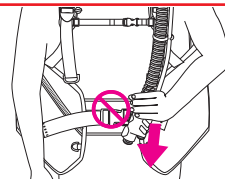
▲ 注意

- ダイビング中、B. C. のフロート内に空気が入っていない状態で排気操作を続けしないで下さい。B. C. フロート内に多量の水が入ることがあります。

□動作点検

▲ 注意

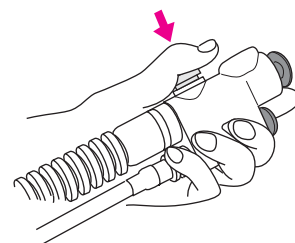
- OUTボタンによる排気は、インフレーターが正しくセットアップされ、かつタンク内にエアがある場合のみ操作ができます。エアがない場合は作動しません。
- コンビネーションバルブⅡを引っぱらないで下さい。破損の原因となり、エア漏れ、動作不良を引き起こします。



■給気操作

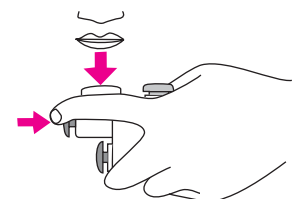
1 [パワーインフレーション]

INボタンを押すと、フロート内に給気されます。押し続けている間だけフロート内に空気が入るか確認します。



2 [オーラルインフレーション]

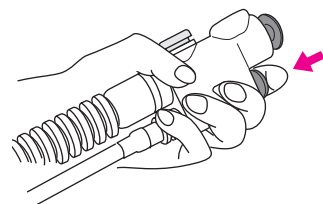
インフレーターのマウスピースをしっかりとくわえ、息を吹き込む時だけORALボタンを押すとフロート内に空気が入ります。確実に給気されるか確認します。



■排気操作

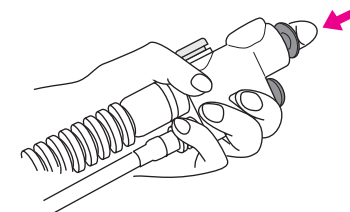
1 [パワーデフレーション]

OUTボタンを押すと左肩のブランケット内の弁が解放され、フロート内の空気が抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、押し続けている間だけ排気されるか確認します。



2 [ORALボタンによるデフレーション]

ORALボタンを押すとインフレーター内の弁が解放され、フロート内の空気がマウスピース部より抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、ORALボタンを押し続けている間だけ排気されるか確認します。



【お知らせ】

- OUTボタンによる排気（パワーデフレーション）を行うと、OUTボタンの付け根から少量のエアが排出されますが故障ではありません。
- 水中での排気操作については、14ページに記載されています。

給・排気基本操作と作動点検 (つづき)

着る・脱ぐ

(ショルダー・ウエストバックルの使い方)

リリーフバルブ排気操作と作動点検

▲注意

- 異常があったら使用してはいけません。
- 下記点検において異常がみられた場合は、使用を控え、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店にお持ち込みご相談下さい。

▲注意

- リリーフバルブによる排気の際、エグゾーストノブを強く引っ張りすぎると破損の原因となります。弁が動く程度の力で十分です。ご使用前に力の程度を確認しておいてください。

□外観の点検

ショルダー・アンダーの各エグゾーストノブの紐が、切れかかっていないか確認します。

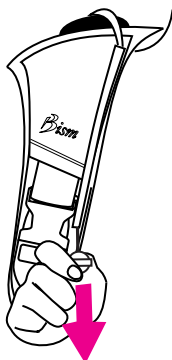
□作動点検

■オーバープレッシャー時の排気動作

- 1 IN ボタンを押しフロートを膨らませます。
- 2 さらに IN ボタンを押し続け、自動的にリリーフバルブから空気が排出されることを確認します。

■ショルダーリリーフバルブによる排気操作 [クイックデフレーション]

エグゾーストノブを下方向に引くと、引いている間だけ肩の弁が解放され、フロート内の空気が右肩リリーフバルブより抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、エグゾーストノブを引いている間だけ、排気されるか確認します。



■アンダーリリーフバルブによる排気操作 [クイックデフレーション]

エグゾーストノブを下方向に引くと、引いている間だけ腰の弁が解放され、フロート内の空気が右腰リリーフバルブより抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、エグゾーストノブを引いている間だけ、排気されるか確認します。

【お知らせ】

- レギュレーターファーストステージをセットする前に、B. C. をタンクにセットします。

B. C. ホースを接続する

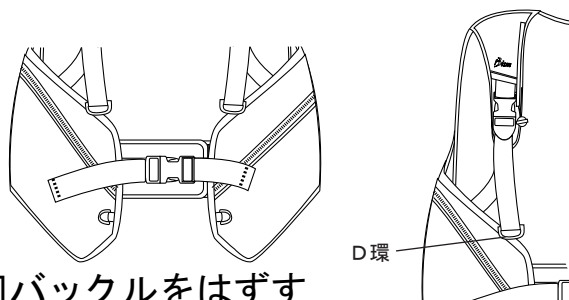
実際に着る前に、各種バックルの使い方を身につけましょう。

▲注意

- 水中では、ショルダー・ウエストの各バックルをはずさないでください。人身事故につながる恐れがあります。

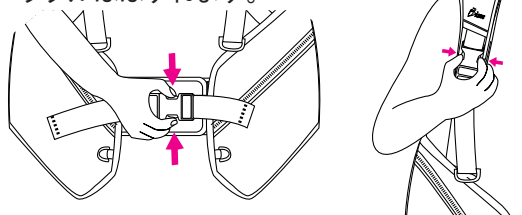
ショルダー・ウエストバックルの使い方

■正しい装着状態



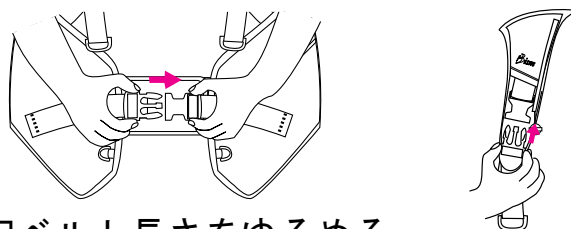
□バックルをはずす

図のように、バックル中央部を強くつまむと、バックルははずれます。



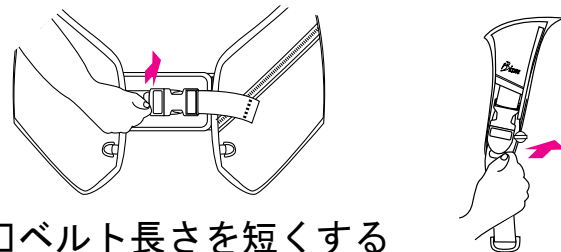
□バックルをはめる

図のように、バックルのオス側をバックルのメス側に強く押し込むと、カチッという音とともに、はまります。



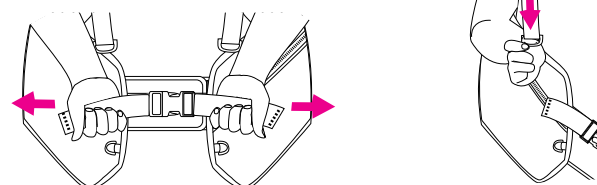
□ベルト長さをゆるめる

バックルを図のように手前に持ち上げベルトをゆるめます。



□ベルト長さを短くする

D環を下方向に引くだけで、ベルト長さが短く調節できます。着る際は、左右のD環を同時に引き体にフィットさせます。



着る・脱ぐ (つづき)

▲ 注意

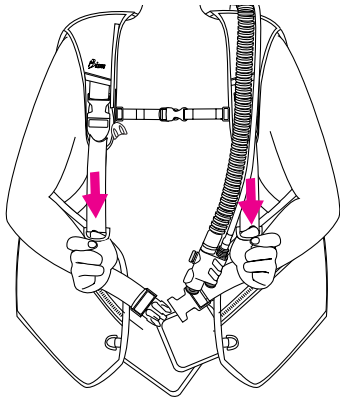
- B. C. の着用は、着用を手伝うバディ以外に近くに人がいないところで行ってください。タンクなどがぶつかるなどして人身事故につながる恐れがあります。
- B. C. のショルダーバックルを、両肩とも止めた状態でご着用ください。はずした状態での着用は、タンクごと落とすなどして危険です。

B. C. を背負う

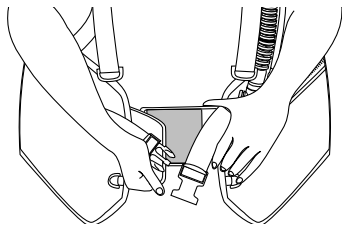
- 1 ショルダーバックルを左右とめた状態で、ベルトを長めにしておきます。ウエストベルトは、バックルをはずし、カマーベルトをはがし、ベルトもゆるめた状態にしておきます。またホース類もからまぬように、タンク側によけておきます。

- 2 左右の袖をとおり、背負います。

- 3 ショルダーベルトのD環の左右両方を同時に引き、体にフィットさせます。

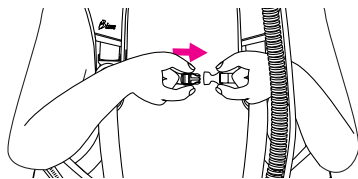


- 4 カマーバンドを張り合わせウエストのバックルをとめます。

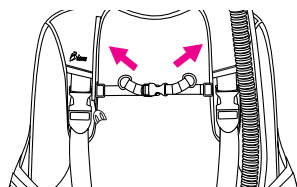


- 5 ウエストベルトの左右両方の先端を同時に引き体にフィットさせます。

- 6 バックルのオス側をバックルのメス側に強く押し込むと、カチッという音とともに、はまります。

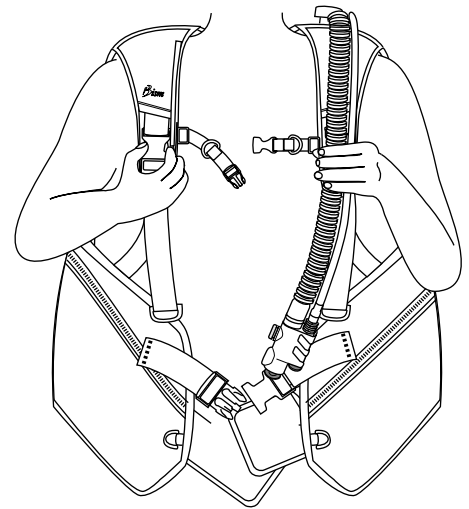


- 7 ベルトの緩みを無くします。



B. C. を脱ぐ

- 1 チェストベルトのバックル、ウエストバックルをはずし、さらにカマーベルトをはがします。
- 2 一方のショルダー部分を同じ側の手でしっかりと持ちます。もう一方の手で持っていない側のバックルをはずします。



- 3 一方の手でしっかりとショルダー部分を持った状態で、タンクを前方にまわしこみ、反対の手でタンクをかかえながら、下に置きます。

基本使用方法

B. C. に空気をいれる

▲ 注意

- 水中では、ORALボタンを押しての給気は行わないようにして下さい。あやまって水を飲み人身事故につながる恐れがあります。
- インフレーター-INボタンによる給気は、タンク内にエアがある場合のみ行われます。エアが十分でない際は給気されません。

【お知らせ】

- B. C. 内に空気をいっぱい入れた状態でさらに給気を続けると、フロートの破裂を防ぐためにリリーフバルブより空気を逃がす構造になっています。

□ INボタンで給気する（水中・水面）

INボタンを押すとB. C. 内に空気が入ります。

□ ORALボタンで給気する（水面のみ）

浮力をフィンキック等により十分に保った状態で、インフレーターのマウスピースをしっかりとくわえ、息を吹き込む時だけORALボタンを押して、空気を吹き込みます。

B. C. に空気を抜く

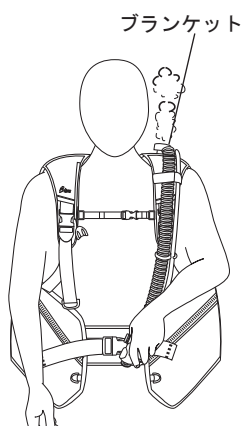
▲ 注意

- B. C. ホースが正しくセットされていない、タンクバルブがしまっている、タンク内の圧力が十分でないなど使用に際し正常にセットアップされていないときは、OUTボタンによる排気はできません。

□ OUTボタンで排気する

（コンビネーションバルブⅡのみ）

左肩のブランケットの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢など）をとり、手でOUTボタンを押すとブランケットより空気が抜けます。



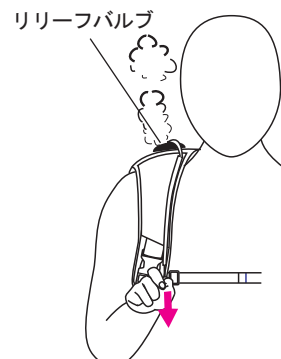
【お知らせ】

- OUTボタンによる排気は、B. C. 中圧ホースが正しくセットされ、タンクバルブが開いた状態のときのみ可能です。

□ エグゾーストノブで排気する

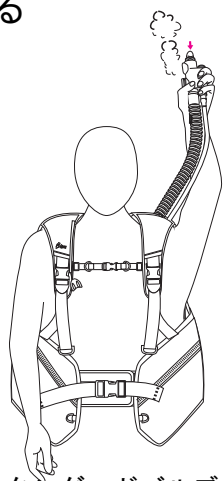
■ ショルダーリリーフバルブの場合

右肩のリリーフバルブの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢）をとり、エグゾーストノブを引くと、右肩のリリーフバルブより空気が抜けます。



□ ORALボタンで排気する

左肩のブランケットの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢など）をとり、さらにインフレーターを水面方向に上げながらORALボタンを押すと、インフレーターマウスピース部より空気が抜けます。

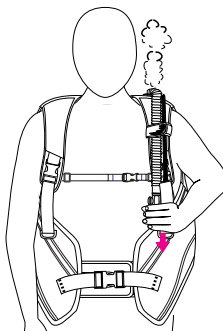


■ アンダーリリーフバルブの場合

右腰のリリーフバルブの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（ヘッドファーストの際など）をとり、エグゾーストノブを引くと、右腰のリリーフバルブより空気が抜けます。

□ プルダンプで排気する（スタンダードバルブのみ）

左肩のブランケットの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢など）をとり、リモート部を引くことにより左肩のブランケットより、空気が抜けます。



2WAY インフレーター (コンビネーションバルブⅡのみ)

インフレーターを背中からまわす

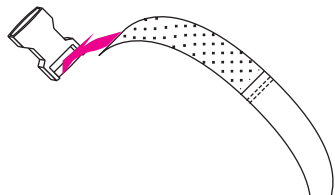
▲ 注意

- インフレーターを背中からまわして使用する時は蛇腹ホースをフロートの背中側に固定しないで下さい。ORA Lボタンによる給気が困難になり人身事故につながる恐れがあります。
- 2WAYで使用できるのはコンビネーションバルブⅡのみです。スタンダードバルブ及びオクトⅡを背中から回して使用しないで下さい。プルダンプ排気によって空気が抜け潜水落下事故の可能性があります。

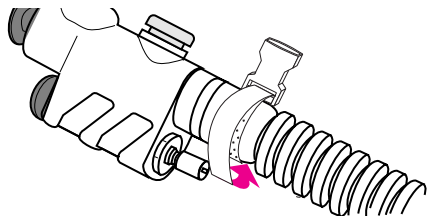
【お知らせ】

- インフレーターを背中からまわして装着することにより左胸元に蛇腹ホースが無い、すっきりとした状態にすることができます。

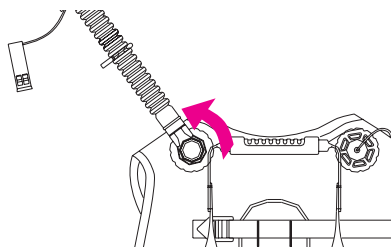
1 付属部品のバックルメスにジャバラベルトを通します。



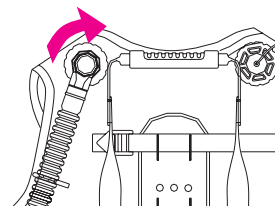
2 ジャバラベルトをコンビネーションバルブのジャバラホースに取り付け、マジックを貼り合わせます。



3 ブランケットのネジを緩めてコンビネーションバルブを取り外します。



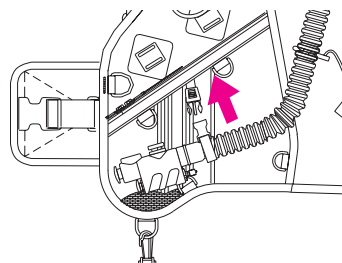
4 コンビネーションバルブを下向きにして、ブランケットの12角形になっている凸部と凹部の角を合わせてねじ込みます。



▲ 注意

- ブランケットの12角形の凹凸を確実に合わせて奥までねじ込んで下さい。12角形がずれているとエア漏れの原因になります。ねじ込みが足りないとブランケットが外れ、人身事故につながる恐れがあります。

5 コンビネーションバルブに取りつけたバックルメスをカチッと音がするまで押し込み、確実にはめ込みます。



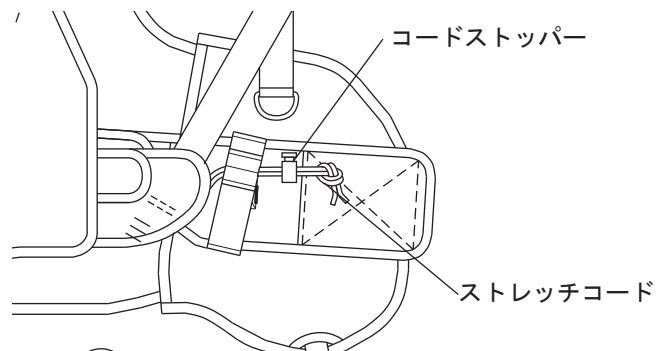
F. T. A. の調節

F. T. A. の調節

【お知らせ】

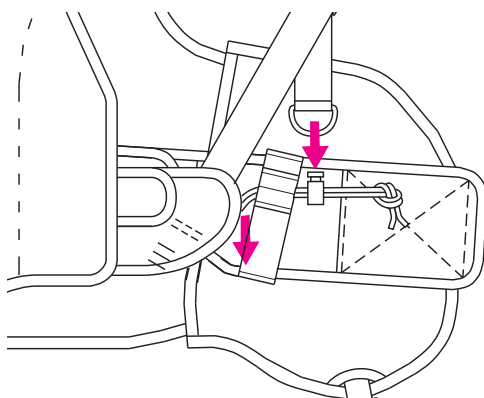
- F. T. A. (フロント タイト アジャスター) を調整することによってカマーベルトやポケットの上下の動きを調整することができます。
- B. C. を背負う時に F. T. A. を緩めておくとカマーベルトやポケットが上下に動きやすくなり、B. C. 内に空気をいっぱいに入れてもカマーベルトが持ち上がりにくくなります。
- B. C. をタンクにセッティングして運搬する場合、事前に F. T. A. を締めておくと、カマーベルトやポケットが垂れ下がりにくくなります。

■各部名称



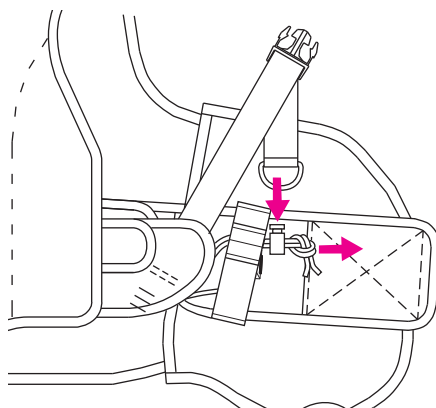
□ F. T. A. を緩める

コードストッパーのボタンを押しながらストレッチコードのサイドベルトに近いところを図のように引っ張って緩めます。



□ F. T. A. を締める

コードストッパーのボタンを押しながらストレッチコードの結び目を図のように引っ張って締めます。



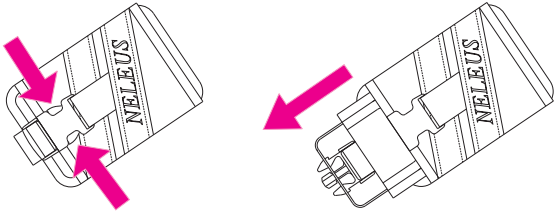
ウェイトポケットの使い方 (クイックリリースウェイトポケットモデルのみ)

ウェイトを装着する

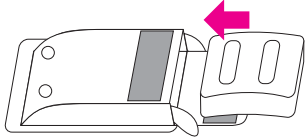
▲ 注意

- ウェイトリリースバックルは緊急時以外は使用しないで下さい。人身事故につながる恐れがあります。
- ウェイトを装着する時はウェイトリリースバックルが確実にセットされていることを確認してください。バックルのセットが不完全な場合、ウェイトを落とし、怪我をする可能性があります。

- 1 バックル中央部を強くつまんでバックルを外し、インナーポケットを取り出します。



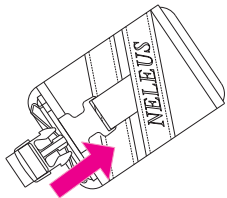
- 2 インナーポケットのフラップを開き、ウェイトを入れます。



▲ 注意

- ウェイトは片側2kgまでとしてください。ポケットが破損する恐れがあります。

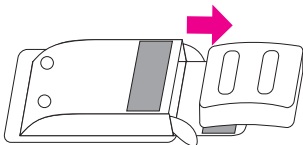
- 3 インナーポケットをウェイトポケットに入れ、バックルのオス側をメス側にカチッと音がするまで押し込んで確実にはめ込みます。



ウェイトをはずす

- 1 バックル中央部を強くつまんでバックルを外し、インナーポケットを取り出します。

- 2 インナーポケットのフラップを開き、ウェイトを取り出します。



- 3 インナーポケットをウェイトポケットに入れ、バックルのオス側をメス側にカチッと音がするまで押し込んで確実にはめ込みます。

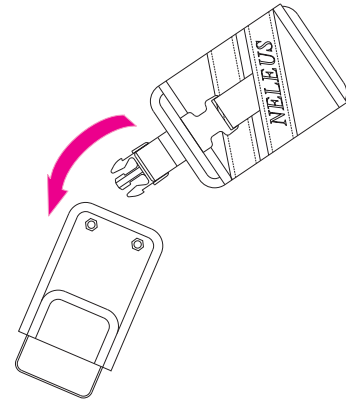
緊急に浮力確保が必要な場合

▲ 注意

- 緊急時以外は以下の方法によるクイックリリースは行わないで下さい。落下したウェイトが潜水者にぶつかり、人身事故につながる恐れがあります。
- バディにもウェイトリリースの方法を教えてください。事故発生時の救出ができない可能性があります。

- 1 バックル中央部を強くつまんでバックルを外します。

- 2 ウェイトポケットの開口部が下 (海底方向) を向いた時にウェイトが落下します。自然に落下しない場合はインナーポケットの取っ手を引いて取り出してください。



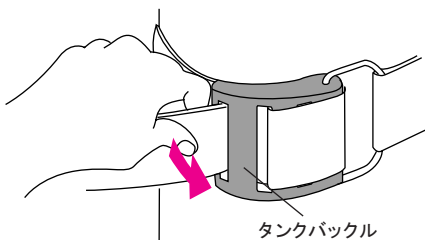
タンクからはずす

タンクからのはずし方

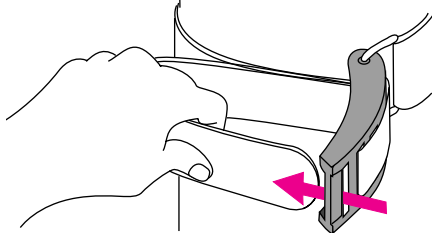
▲注意

- タンクからB. C. をはずす際は、タンクを平らな地面など安定した場所に置いてください。倒れるなどして危険です。

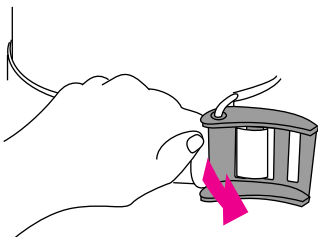
- 1 タンクバルブを締め、レギュレーターセカンドステージのパージボタンを押すなどして、ホース内に圧力がかかっていないようにしてから、B. C. ホースをプラグより外します。（8ページ参照）
- 2 レギュレーターファーストステージをタンクからはずします。
- 3 タンクベルト先端部を、マジックバンドからはがしとり、タンクバックルを立てます。



- 4 タンクバックルの穴より、ベルトを抜き取ります。



- 5 タンクバックル付け根を矢印の方向にずらすと、ベルトがゆるみます。



- 6 タンクヘッドベルトのマジックバンドをはがします。

- 7 タンクベルトの輪をゆるめ、タンク上部からB. C. を抜き取りはずします。

【お知らせ】

- B. C. からはずした後もタンクバックルからベルトを抜き取らない状態にしておくと、次回のセッティングの際に容易です。

洗う・乾かす

外側を洗う

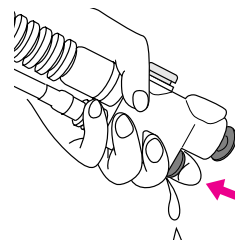
▲注意

- 50℃以上のお湯に付けると、器材破損の原因となります。
- B. C. は使用後直ちに真水で洗ってください。付着した塩分が、乾燥・結晶化するとバルブの作動不良の原因となります。

- 1 全体を15分程度真水につけた後で、水の中で全体をよくすすぎ塩分をとります。
- 2 各バルブ、インフレーター部分を真水でよく洗い流します。

バルブ内部を洗う

- 1 バルブ内部を洗います。
- 2 タンクにレギュレーターファーストステージをセットし、B. C. ホースをインフレーターに接続します。
- 3 タンクバルブを開き、OUTボタンを4～5回押します。OUTボタン付け根より、バルブ内の水分が排出されます。

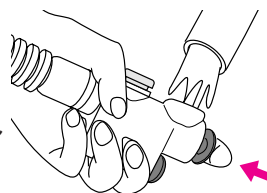


フロート内部を洗う

▲注意

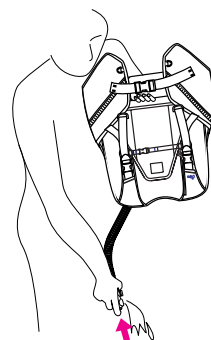
- B. C. に空気を入れながら、その圧力を使ってリリースバルブから水を押し出さないで下さい。破損の原因となります。

- 1 インフレーターのORALボタンを押しながら、マウスピース部分にホース蛇口などを押しあて、フロート内に、真水を1/4程度いれます。
- 2 インフレーターのマウスピースより空気を吹き込み、B. C. を膨らませてから、B. C. を十分にゆるめて、フロート内部をすすぎ洗います。



- 3 インフレーターホース付け根のブラケット位置が、最も下になるようにもち、さらにインフレーター位置を一番下にして、ORALボタンを押し中の水を空気と一緒に出します。

- 4 「1～4」を2～3回繰り返します。



洗う・乾かす

乾かす

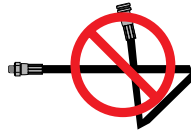
- 1 インフレーターマウスピースより、八分程度空気を吹き込みB. C.を膨らませます。
- 2 直射日光を避け、乾燥した、風通しの良い日陰で、十分に乾燥させます。

保管と定期点検

保管方法

▲ 注意

- B. C. ホースは、自然な形で保管して下さい。無理な曲げはホースの折れ等をまねき、寿命を著しく縮めます。
- B. C. は、折りたたまないで保管して下さい。フロートの寿命を著しく縮めエアリー漏れの原因となります。



- B. C. の洗浄・乾燥を十分に行います。
- 日があたらない、涼しく、乾燥した、風通しのよい場所に、ハンガーにかけて保管します。

定期点検について

▲ 注意

- 使用の頻度・回数にかかわらず、年に1回、お買い上げ店、もしくは弊社商品取扱販売店に定期点検に出してください。
- 使用の有無にかかわらず、定期点検を怠るとB. C. が正常に機能しないことがあります。

【お知らせ】

- 部品の中には自然劣化するものもあります。定期点検ではこのような部品の交換も行います。
- 年に1回、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店に定期点検に出してください。（有償）

アフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取り下さい。
- 所定の事項を記入し、記載内容をお確かめの下さい。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

- 調子が悪いときはまずチェックを「故障?と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。
- それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または弊社商品取扱販売店にご相談下さい。
- 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
- 部品の保有期間について
弊社はB. C. ジャケットの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造終了後最低8年間保有しています。
この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、もしくは弊社商品取扱販売店にご相談下さい。

故障？と思ったら

トラブル内容	主な原因	処置	参照ページ
着たときにフィットしない。	○ウエスト部のカマーベルトの長さが合っていない。	○カマーベルトを調整してください。	8
	○ショルダーベルトの長さが合っていない。	○ショルダーベルトを調整してください。	9
B. C. がタンクへしっかり固定できない。	○バックルへの通し方が、間違っている。	○ベルトをタンクバックルに正確に通し、固定します。	10
INボタンを押しても膨らまない。(給気されない)	○B. C. ホースが正しく接続されていない。	○B. C. ホースを接続して下さい。	10
	○タンクバルブが開いていない。	○タンクのバルブを開けて下さい。	—
	○タンクにエアが十分入っていない。	○エアが十分に充填されているタンクにセットしなおして下さい。	—
	○排気ボタンを同時に押している。	○排気ボタンを押さないで下さい。	—
オーラルインフレーションをしても膨らまない。(給気しない)	○リリーフバルブが開いている。	○エグゾーストノブを引かないで下さい。	—
	○空気を吹き込む以外の時に、ORALボタンを押している。	○ORALボタンだけを操作して下さい。	11
		○空気を吹き込む時だけ、ORALボタンを押して下さい。(潜水指導団体の講習を参照)	11
ORALボタンによる、排気ができない。	○姿勢が適当でない。	○排気口がフロート部よりも高くなる姿勢をとりながら、ボタン操作を行ってください。(潜水指導団体の講習を参照)	14
エグゾーストノブを引いても排気しない。	○姿勢が適当でない。	○リリーフバルブのブラケットの位置がフロートにおいて最も高くなる姿勢をとり操作を行って下さい。	14
リリーフバルブから空気が漏れる。	○フロート内圧が一定値を超えている。	○ジャケットの破損を防ぐため内圧が上がると空気が漏れる構造になっています。	—
	○リリーフバルブに異物がはさまっている。	○バルブをよく水洗いして下さい。	—
インフレーターのマウスピース部から空気が漏れる。	○オーラルバルブに異物がはさまっている。	○インフレーター内をよく水洗いして下さい。	18
インフレーターの肩ブランクセットから空気が漏れる。	○排気バルブに異物がはさまっている。	○ブラケット部をよく水洗いして下さい。	—
B. C. ホースがインフレーターに接続できない。	○B. C. ホース内に圧力がかかっている。	○タンクのバルブを閉じ、レギュレーターのパージボタンを押すなどしてホース内の空気を抜いてください。	10
	○弊社製品以外のB. C. ホースを使用しているため接続部のサイズがあわない。	○付属のB. C. ホースをご使用ください。	—
B. C. が異常に重い。	○フロート内部に水が入っている。	○フロート内部の水を、排出します。	18
浮力が足りない。	○ウエイトが重すぎる。	○適正なウエイト量に調整して下さい。	—
OUTボタンを押しても排気しない。	○B. C. ホースが正しく接続されていない。	○B. C. ホースを接続して下さい。	10
	○タンクバルブが開いていない。	○タンクのバルブを開けて下さい。	—
	○タンクにエアが十分入っていない。	○エアが十分に充填されているタンクにセットしなおして下さい。	—
	○姿勢が適当でない。	○左肩のブラケットの位置がフロートにおいて、最も高くなる姿勢をとって下さい。	14

株式会社ビーイズム

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-6-18 NFビル5F
 TEL. 03-5640-8126 (代表) FAX. 03-5640-8131
<https://www.bism.co.jp> E-mail: info@bism.co.jp

20230130MJ